



奇兵隊

結成

幕末（江戸時代のおわりころ）の1863（文久3）年6月、長州（萩）藩士高杉晋作らによって下関で結成された長州藩の軍隊組織です。武士のみで編成された正規軍に対して、身分にこだわらず、広く藩内の農民や町民からも有志をつのって創設された、藩の正規兵以外の軍隊組織でした。

陣屋の設置

1867（慶応3）年に吉田の諏訪の地を開墾し、本格的に陣屋を構えました。1869（明治2）年11月に解隊するまでの間は、古今の歴史を変える一大転換期でした。

発掘調査

陣屋の敷地

現在残っているのは、吉田の諏訪を通る中国自動車道の南側に面する土塁（土を盛り上げてつくった高まり）に囲まれた、東西約170m、南北約55mの区域（標高約20m）です。

陣屋の造成

1995（平成7）年の発掘調査で、陣屋は敷地西側部分にあった小高い山をけずり、低い東側部分に盛って平らにしたことが推定できました。敷地はまわりの土地から約3m高く、大規模な土地造成であったことが考えられます。陶磁器・瓦・弾丸など、おもに幕末の品々が見つかりました。

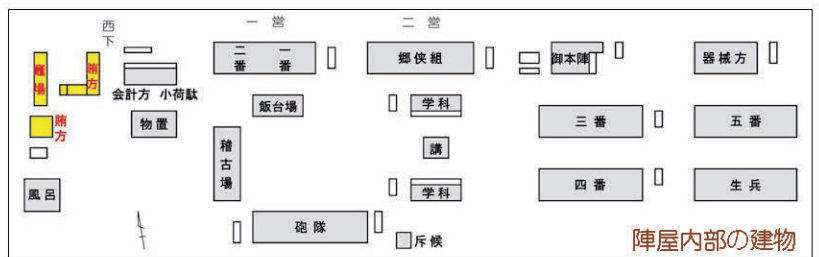
磁器の碗

奇兵隊の「奇」の文字が入った磁器の碗7点が見つかりました。うち6点は、陣屋西側部分の「電場」（食事を調理する場所）、「賄方」（食事を用意する場所）付近から見つかり、こわれて捨てられたものと思われます。

ここがポイント

碗の内側の底に、「奇」の字があわい青色に筆書きされています。精良なつくりではなく、窯の中で重ねて焼いた跡が残っていることから、注文生産により付近の窯で、ある程度の数量がまとめて焼かれたものと考えられます。全面白地の碗の同じ所に「奇」の1文字を入れており、特徴的な絵付けといえます。

◆アクセス 「東行庵入口」バス停から徒歩約10分



『厚狭郡史』厚狭郡教育会 1926から転載・作図



奇兵隊ゆかりの品